

### 第三者評価結果

事業所名：ポピンズナーサリースクール武蔵小杉

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・法令や保育所保育指針をはじめ、法人理念や目標に従って全体的な計画を策定している。子ども一人ひとりの個性や発達状態を把握して指導計画を策定している。</p> <p>・毎月「月週案」を作成してクラス担任とフリー保育者が協働して保育に取り組み、さらに月1回の評価と反省をもとに次月に活かす流れとしている。また、「月案」には指導内容のほか、季節に合わせて保護者へ依頼することや配慮することなど数多くの項目が記載されており、保護者も含めて支援する体制が取られている。内容に関しては、「年齢と個々の発達に応じて計画されているか」などの視点で主任及び施設長が確認する仕組みも整っている。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・室内の玩具をこまめに消毒して清潔確保に取り組み、寝具についても週1回の定期交換や汚染時には適宜交換することになっている。また、屋外環境の整備に関しては、定期的に「必要」「不必要」を選別し安全管理に努めている。</p> <p>・ソファやクッションなどを用いて絵本を静かに読めるパーソナルスペースを確保したり、一人ひとりが好きな時間に落ち着いて過ごすことができるような環境を整えたりしている。</p> <p>・食事の際には特に保育室内を清潔に保ち、午睡時には照度計を使用し適切な明るさの確保や音楽を流して心地よい空間作りに取り組んでいる。手洗い場やトイレの清潔確保にも力を入れ、定期的に物の配置や使用するものについて考える機会を設けている。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・集団保育を行う際にも、子ども一人ひとりの発達や成長段階を見極め、それぞれの個人差を受け止めながら丁寧な保育を心がけている。また、子ども一人ひとりとのスキンシップを大切に、得意分野を伸ばしたり苦手なことに挑戦しながら信頼関係を築いていけるようにしている。</p> <p>・乳児や自分の気持ちを表現することが苦手な子に対しては、気持ちを受け取めながら代弁したり、本人が言葉に出して気持ちを伝えやすい環境を整えたりなど、寄り添っていくようにしている。初めての取り組みを行う場合以外にも、日頃から伝えている約束事を話すときなどでは、分かりやすい言葉を使用するようにしている。常に適切な言葉を使うことを心掛け、丁寧な関わりができるように接している。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・一人ひとりの発達に応じて着脱や排泄などを促し、無理のないように見守りながら褒める言葉がけを大事にし、自らやってみようとしながら生活習慣が学べるように工夫している。健康に園生活を送ることができるよう、活動の合間でこまめに水分補給や休息を取ることよう促したり、子ども一人ひとりからの発信を細かく丁寧に受け止めたりすることに力を入れている。</p> <p>・基本的な生活習慣をある程度できるようになった頃には、子ども一人ひとりがそれぞれのペースで無理なく進めることができるよう、時間配分や環境設定を考慮することを心がけている。また身の回りのことを自分でできる大切さを伝えることを心がけている。</p>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>・保育室には月齢に適した玩具を配置して好きな遊びを楽しめるようにしたり、子ども一人ひとりが主体的に周囲との関わりながら遊ぶことができるように取り組んでいる。また、思い思いに遊びを進展させ、身体を動かして遊ぶ活動を充実させることに力を入れている。</p> <p>・戸外活動の際には交通ルールを意識して安全に散歩できるように声かけを工夫したり、食事の際には姿勢や食具の持ち方などが適切に行えるように支援したりしている。また、例年であれば、勤労感謝の日に老人ホームや近隣の公共機関にプレゼント（製作物）を渡すなどの活動を行い、地域の人と関わりを大切にしている。コロナ禍においては、医療従事者にむけた応援製作とメッセージを送ることなどにも取り組んでいる。</p>	

<p>A-1-(2)-⑤ 【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児が五感を使って遊び込めるように様々な玩具を提供したり、木の玩具にあわせて手作り玩具を作成したりして、子ども自身が遊びたい、触れたいと思える環境作りに力を入れている。また、長時間過ごすことを踏まえ、静と動の活動をバランスよく取り入れ、無理のない遊びの提供と環境設定に努めている。</li> <li>・乳児保育では、欲求をみだし自分が受け止められているという気持ちを育める言葉かけを大切にしている。また、「初めての子育て」「初めての保育園生活」「育児休業明けの職場復帰に関する不安」などを感じている保護者も多いことを踏まえ、様々なストレスに対して丁寧に対応し、安心して子どもを預けられ、働けるように保護者とのコミュニケーションを大切にしている。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人ひとりの発達を見極め、側に寄り添いながら「見守りや必要に応じた介助」に努め、個々のやりたい気持ちを受け止めることを心がけている。また、個々の活動において答えをすぐに出すのではなく、子ども自身が考え自分の答えに自信をもって伝えることができるような関わりを大切にしている。月齢に合った玩具を配置しコーナー遊びを充実させ、さらに安心できるような声かけによって暖かい雰囲気作りに取り組んでいる。</li> <li>・連絡帳を通して保護者とコミュニケーションを図り、安心して園に預けてもらえるような関わりを大切にしている。例年であれば、餅つきやハロウィンなどに保護者の方々や地域の方を園に招き、子どもが保育者以外の大人と関わる機会を設けていた。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児保育では、活動をじっくりと楽しみ落ち着いた環境の中で友達との関わりを楽しむ事ができるよう、個々のやり取りを側で見守る姿勢を大切にしている。4歳児保育では、友達と一緒に協力して遊ぶことを楽しむ中で、一人ひとりの個性を十分に発揮することができるように、必要に応じて保育者が介入したり、声かけをしたりして見守ることにしている。</li> <li>・5歳児保育では、保育者からの発案を少なくし、子どもが主体的に活動に参加することができるよう意見に耳を傾け、友達と協力して遊ぶことの楽しさを自ら感じられることができるような環境作りに力を入れている。さらに、コロナ禍ではあるが近隣の保育園とのオンライン交流会を通じて活動を伝えたり、他園に活動を聞いたりして、意見交換をする機会を設けている。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物や設備においてはバリアフリー化し、車いすなどでも生活できるような設計になっている。集団保育するにあたって個別カリキュラムを作成し、計画に沿って保育に取り組めるようにしている。また、社会的なモデルを目指して、子ども同士の関わりに加え、スタッフの関わりについても研修を行い学べる機会を設けている。</li> <li>・保護者とは特に密な連携を図るようにしており、医療機関や専門機関との関わりに関する情報収集に力を入れ、日常の保育に活かせるようにしている。さらに、保護者の承諾を得て、専門機関が来訪し子どもの保育園生活を実際に見学してもらい、担任と専門医で面談を行い個別配慮等の相談や助言を受ける体制も整っている。表やカードを使用して、視覚でも保育の流れや次の行動の見通しがもてるようにしている。</li> </ul>	
<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス毎の月週案において長時間保育の取組を明示しており、疲労を考慮してゆったりと静かに遊べるようにしたり、ラグやコーナーでゆったりと身体を休めるスペースがとれるようにしたりしている。また、希望によっては補食や栄養士の手作り夕食を喫食できるようにしている。</li> <li>・活動の合間や切り替わり時には小まめに休息を入れたり、子ども一人ひとりを詳しく視診したり、必要に応じて触診するなど無理なくゆったりと過ごすことができるようにしている。さらに、ホワイトボードや朝のミーティングを通して、スタッフ間の連携にも留意している。</li> </ul>	

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学に向けて、オンラインによる児童館との交流やポピンズグループ内の年長児交流会などを毎月開催して、小学生や他園児と交流を深める機会を設けている。これらの取り組みを通じて、子ども一人ひとりが就学に向けたイメージが持てるようにしている。例年であれば、他園との年長児交流会や小学校訪問の交流に参加する機会を設け、小学校の雰囲気や他園の園児と関わりを実感できるようにしている。ただし、コロナ禍もあり、オンラインによる開催を余儀なくされている。</li> <li>・毎年、年長児クラスの担任と小学校教諭が意見交換を行う機会を設けており、丁寧な引継ぎによって円滑に小学校へ送り出せるように連携を図っている。保育要録は担任が作成し、主任・施設長の決裁を経て提出する流れとしている。</li> </ul>	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園児面談には必ず看護師が出席して健康に関わる留意点などを把握し、スタッフ会議において必要事項を共有するようにしている。また、スタッフへの周知を図ることを目的に、スタッフミーティングにおいて健康管理に関わるマニュアルの読み合わせを行うことにしている。体調悪化や怪我等が発生した際には適宜保護者に連絡し、受診を必要とする際には受診前・受診後にそれぞれ細かく伝えることにしている。</li> <li>・健康に関わる項目は指導計画にも明示しており、子ども一人ひとりに見合った対応がなされるように、担任・フリースタッフ・主任が連携を図りながら取り組むことにしている。SIDS対策としては必ず見守り保育者1名以上配置し、入眠時の姿勢、掛物、湿度、呼吸、顔色などチェックすることになっている。保護者に対しても、入園時や懇談会・個別面談を通して、必要な知識を提供して理解を促している。</li> </ul>	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断・歯科検診ともに、結果を書面とシステム入力にて保護者へ共有している。保育計画の中に健診を盛り込んでおり、定期的な健康診断などを活用しながら保育をしている。歯科検診においては、細かく歯石・虫歯・かみ合わせ等も歯形の書面を利用して分かりやすく表記した上で伝えている。</li> <li>・園外で行われている健康診断（1歳児半、3歳児半）は保護者から結果を聞き取り、内容によっては個人カリキュラムや個別配慮に組み込んでいる。MTG等でスタッフ共有し保育に反映するようにしている。</li> </ul>	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに作成した「アレルギーマニュアル」に沿った食事の提供や対応を行っている。現在慢性疾患のある園児はいないが、体調不良など医師の指示がある場合は指示に従い、食事変更・除去などの対応を行っている。</li> <li>・毎月アレルギー児の保護者と面談を行い、事前に献立を説明したり、配慮を必要とする内容を共有したりして安全な食事提供に努めている。また除去食によって誕生日会などを提供する際には、見た目の相違がないよう盛り付けへの配慮や食材の選定に取り組んでいる。さらに毎年、園内でアレルギーに関する情報・知識の共有、エビベン使用方法の研修を行い、スタッフへの注意喚起を促している。</li> </ul>	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
<コメント> ・年間活動計画や月週案に食育を盛り込んでおり、目標を明示したうえで具体的な食育活動に取り組んでいる。また、テーブル毎に人数を決め、幼児はパーテーションを用いて向き合って食べられるようにしている。子どもの発達に合わせて食事介助の仕方や声かけを行い、食具や食器に関しても子ども一人ひとりに合わせて提供することになっている。 ・例年であれば幼児クラスはバイキング方式を取り入れ、自分が食べられる量を取り分けるようにしている。また、子どもの苦手な食材を食育計画に取り入れ、自ら苦手な食材に挑戦できる環境作りにも取り組んでいる。毎月給食メニューから好評なメニューを取り上げ、レシピを公開したり、アンケート実施してレシピに反映させたりしている。さらに、個別相談にも対応することになっている。	
【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント> ・子どもの発達状況に応じて食材の大きさを小さくしたり、9月の身体測定値を基に栄養目標量を再度設定したりしている。栄養士は給食時に各クラスをまわり、喫食状況を把握することに力を入れている。また、毎日残食量を計測して喫食状況を分析し、給食会議において内容を報告したうえで献立に反映させることにしている。 ・旬の食材をはじめ季節の行事食を取り入れたり、各月で多文化メニューと郷土料理を取り入れてたりして、子どもに食事へ興味を持ってもらえるようにしている。また、食事に関する掲示を作成して子どもや保護者に丁寧に伝えたり、HACCPの考えを取り入れた衛生管理に取り組んだりしている。	

## A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> ・家庭や園での子どもの様子は、日々の連絡帳や登降園時に共有し、さらに園での子どもの状況は日常の写真を全クラス掲示して様子を伝えることにしている。また、年二回のクラス懇談会、新年度には新入園児個別面談を設け、その他に全園児を対象に個別面談を実施している。 ・行事の際には動画を配信したり、写真を掲示したりし、日々の成長を伝え共有できるようにしている。保護者より個別に相談を受けた際には、時間を設け面談し内容を必ず記録することになっている。	
A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント> ・日々のコミュニケーションを通して、傾聴する姿勢を保つことで信頼関係を築けるように努めている。また、相談事がある際には連絡帳や面談などを活用しており、面談をする際には就労の負担にならぬように希望時間への配慮を心がけている。 ・年2回の個別面談を実施する際には事前アンケートを行い相談内容を事前に把握することになっている。また、定例の個別面談に加え、新入園児を対象にした面談、年度末には年長児対象の面談をそれぞれ行い、入園時や就学前の不安やストレスを軽減させるように取り組んでいる。面談内容は記録を必ず取り、主任・施設長が内容を確認する流れとしている。必要に応じて、主任や施設長面談を実施している。	
【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<コメント> ・虐待などの兆候を見逃さぬように、日々の子どもや保護者のやりとりに加え、着替えや排泄時など丁寧な視診を心がけている。また、スタッフ会議において虐待防止マニュアルを読み合わせたり、児童虐待をテーマとした研修を開催したりして注意喚起を促している。虐待などの兆候や類似する事例などが見受けられた際には、速やかに園内で情報共有して協議する体制が整っている。虐待早期発見シートや経過観察記録に担任またはフリースタッフが記入し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら対応することになっている。 ・子どもの情緒や身体の触診・視診によって、早期虐待の発見やSOSを見逃すことのないように努めている。また、朝の受け入れや帰りの際に保護者の話に耳を傾け、悩みや相談を受けやすい体制づくりに取り組んでいる。必要に応じて施設長が個別面談や相談に応じるようにしており、養育の大変さへ共感することを大切にしている。	

### A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>A-3-(1)-① 【A20】 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月週案や個別のカリキュラムなどを主体的に振り返りと反省を行っており、中でも心身の健康を大切に、情緒の安定を目的としている。スタッフ一人ひとりが個人目標を作成して施設長面談を行い、中間期にも振り返りを行う機会を設け、目標達成できているか確認をしている。</li> <li>・保育の改善や専門性・意識の向上を組織一丸となって取り組んでいくために、外部研修や社内研修の共有化に取り組んだり、園内研修を充実させたりしている。週末ミーティングにおいてグループワークなどを実施し、意見交換する機会を多く設け学びの場となる環境作りに取り組んでいる。</li> </ul>	